第５回釧路市まちづくり基本構想策定市民委員会
議事要旨

１　日　時　平成２９年８月２９日（火）
　　午後３時００分～午後５時００分
２　場　所　釧路市役所　本庁舎２階　第３委員会室
３　出席者
（１）　委　員：浅野委員、伊藤委員、井上委員、金子委員、口田委員、
　　小磯委員、柴崎委員、夏堀委員、西村委員、長谷川委員、
　　畑委員、檜森委員
　　（五十音順）

（２）　釧路市：蝦名市長、名塚副市長、岡本総合政策部長、太田基本構想主幹、
　　大物専門員、平間主査、沼尻主任

４　内　容
（１）　開会
（２）　委員委嘱
（３）　会議成立確認
（４）　市長挨拶
（５）　委員長挨拶
（６）　議事
　①釧路市まちづくり基本構想（素案）について
　　ア　前回までの議論の確認
　　・資料１、資料２に基づき、事務局より説明。
　　・意見、質問等なく確認された。

　　イ　目指すべきまちづくりを実現するための考え方
　　・資料３に基づき、事務局より説明。
　　・意見交換
　　（○は委員の発言、◎は委員長の発言、●は事務局の発言、以下同じ）

◎新しい総合計画であるまちづくり基本構想の骨格となる理念として域内連関というメッセージの提案である。地域の総合計画の中で域内連関という言葉を位置づけることはひとつの挑戦だと思う。釧路市の色々な取り

組みを集約しながら次の発展に結びつけるコンセプトとして前向きな提案だと考えている。本日は地域で共有していくために意見をいただきたい。

〇域内循環は重要な取り組みだと感じた。暮らしの中で自分の考えや思いで、自分が買いたい所まで出かけてお金を払って来る流れがあるが、経済について苦しい状況もあるとは思うが、地域で考えを共有して食べ物、着るものを地元で賄っていくことが重要だ。

域内連関については、町内会の関係では人と人との関わりが弱体化しているが、これを取り戻さなければいけない。説明の中で、防災が例示されたが、災害があった時に声をかけて避難することは自然にはなかなかできない。日頃の付き合いの中でつながりができるような基本となる暮らし方が必要だと思う。

〇域内連関については、古くは産業クラスターなど、小さな主体が集まって一つのものを作り出すという動きはあったが、小さなまとまりの中で終わってしまっている印象がある。

今あらためて考えると、人と人とが出会うのがつながりの基本だと思う。連関は無理に作るものではなく基本は人と人なので、自然発生的に誰かと誰かが出会った時、資料の観光振興の例によれば、飲食の人であったり、喫茶店の人であったり、ペンションを経営している人であったり、色々な人たちが何かをやってみようかというときにネットワークでできるようになればよいと思う。

この市民委員会も様々な業種の方で構成されているため、議論を聞いているだけで自分の周りが広がる感じがしており、様々な主体のつながりを示す域内連関は理解できる。一方で、域内循環になると逆にネットワークが広がっているがために地域の中で循環することが、難しくなっていると感じる。安いものをネットで探すことや商店街よりも大きな商業施設に行って買う、釧路の小売業より札幌に行った方がいいものがあるような気がするなど、世界が広がるにつれて域内循環はとても難しくなってきている。

他の委員の発言にもあったが、小さな地域、コミュニティをどれだけつないでいけるかという基本に戻ることが重要だと思う。

〇域内連関の説明を聞いて、社会福祉協議会で取り組んでいる小さい単位での地域福祉活動では、基本的に住民自体に課題を認識してもらい、自ら取り組んでもらうことを大切にしながら関係機関が介入することで、展開している。

その点からは、テーマによっても差があると思う。域内連関の考え方の中でも、自らの地域の問題であるという意識が関連してくる。前にも委員会で発言したが、地域にどのようなものがあり、どのように結び付けるとうまく進むかを考えることで、ウィンウィンの関係で地域活動が発展することもあるので、コーディネータ的な役割が大事である。

〇資料の中で生産者と消費者が地域全体から財を逃がさないというメッセージについて、間違ったとらえ方を市民がしてしまえば、外部との関係を狭める可能性もあるのではないか。地域の中だけで稼いでいれば良いとなると、地域の関係性が、今までと違うかたちになってくるのではないか。地域のつながりを生かす域内連関という考え方は、観光振興というテーマについて連関していこうとする時にメインストリートがはっきりしない状況のなかで連携するとか、場所がない状況でうまくつながっていくことは難しいと私達の世代は感じている。

◎今の意見は大事な点であるので私から説明したい。

最初に懸念を持たれた点だが、域内循環についていわば自給自足的イメージを持たれると誤解につながる。決してここのメッセージはそれを目指しているものではない。私は、地域内の中で生産者と消費者が強く結びついた地域経済構造を目指すという考え方を述べている。この説明をすると東京などの経済学の研究者の多くから自給自足的経済では地域は発展しないとの反論がある。その反論に対しては、地域の中で閉鎖的な経済を作りあげていくのではなく、逆に地域の中で稼いだものが、安易に外に漏れてしまう弱い経済構造は問題だと考えている。もし釧路の中に生産可能な生産者がいれば、他地域に負けない良質の生産品をつくるよう域内の消費者が声を上げるべきだ。そうすれば、域外から生産物を購入することなくお金を生産者に支払うことで域内にお金が循環する。そこで大事なことは域内に資金を循環されると同時に生産力や競争力を域内の生産者が高めていくための努力をすることである。そのような生産者と消費者の緊張関係がベースにあることで、経済が発展していき、結果的に外から稼ぐ力を地域が持つようになるメッセージがこれまでの取り組みにはある。委員の懸念と同じく、私もこの文章と説明資料には、その緊張関係や外から稼ぐ力が醸成されて、結果的に強い地域になるという部分が抜けているように感じたので誤解がないようにメッセージを出していく必要を感じた。

２点目はまちづくりに人が集まる空間とはどのようなものなのか、都市政策に非常に大事な部分である。メインストリートは人や情報のたまり場

や魅力のあるつながりの空間でもあるので、まちづくりの議論にもつなげて展開していくと域内連関というメッセージが生きてくる。

〇特に感じたことは、地域内には自分の強みと地域資源を言えない人が多いのではないかという点である。経営学の概念があって、強みと地域資源を自分たちで SWOT 分析するなどマネジメントで組織づくりを学んでいれば、ある程度理解できるが、それは少数だと感じている。まちの最小単位は人なので、自分の強みとか弱みを認識できていない組織や主体は域内連関に上手に参加できないと思う。

私が教育機関に関わる際に、学生などは自分の強みを言えない。今関わっている地域活動に参加している大人も同様であり、自分の良いところを言えない。商売に置き換えると、どのようなお客さんに満足してもらえるかを認識し、お店の良さを伝えられるかが強みになる。

その対策としては違う主体の方とディスカッションするなかで、自己分析をしながら自分たちの組織の中でその必要性を理解して地域に関わっていかなければならない。強みが言えるところは一人勝ちして、他者と連携しようとするよりも、その組織を良くしていく思考になっていくのではないか。

◎強みと弱みを認識するためには、何が必要でしょうか。

〇わかりやすい分野は経済で、企業努力が結果に出ているところは強みを分析できており稼げている。そうではないところも、努力していないわけではなく、自分たちが良いと思っていることが伝わっていない場合がある。自分たちが良いと感じて話していても、相手に伝わっていないため良い関係を築けない。釧路の人がいいと思ってお話しても観光客にしたらそうでもないこともある。様々な人と会話して指摘を受けながら自分たちの強みをブラッシュアップするディスカッションが解決策になると感じる。

〇全体的に一歩踏み込んだ政策が必要だと感じる。資料として市民が見たときに域内循環の良さは伝わるが、では、具体的に実施していることや、例えば、このような事業にはどの程度投資するかなど具体的に見えてこない。これは理想だが、実現に向けた問題点まで記載されてないとあまり納得できないのではないか。

実際、なぜ地域外で物を買ってしまうのかを考えていくと様々な問題がある。例えば、農家にはレストランから「地元産の牛乳が欲しい」とか「地

元でこのような商品を作っていないのか」という問い合わせをもらうが実際の提供には至らない。例えば、阿寒牛乳や釧路牛乳を作るとするとコストが発生するが、その分を消費者が納得してくれるのか。それが達成できないから域内循環は難しい。その課題に対して、政策として域内の産品を使用する場合には支援を行う、域内の製品に関する情報発信を市で行うなどの仕組みがないと実現ができない。どうすれば課題が乗り越えられるのか、そこまで踏み込むと説得力が増す。

先ほどもあったが、確かに強み弱みを言えない人が多い。弱みの共有も大事であり、例えば、釧路の涼しさは強みだが、逆に冬は寒すぎる。夏場は長期滞在ができても、冬場は施設が空いてしまう弱みがある。弱点をいかに共有して地域一体で弱みを克服するかを考えていくことも重要だ。

◎域内連関を阻んでいる現実を見据えて政策議論していく。今までできなかったことをしっかり見極めていくことが重要。委員から発言があったように、釧路ではこの考え方で２０年近く取り組んでいるが、一番大きな議論は地産地消で地元のものを出す中で、高いものを消費者が本当に望んでいるのか。どれくらいの価格にすれば実際、消費者が地元のものを選ぶのか調査したが、価格にしたら２３％くらい高くても消費者が選好してくれるデータがある。

一つのメッセージを出すことで、逆に少し高くても地元産のものを表示し並べることによって購買につながる。行政、政策の役割として、科学的な情報をしっかり提示していく。地元産に補助金を出すという支援策ではなく、本当に連関していくようにモチベーションを高めていくきっかけ作りが政策として必要ではないか。

〇域内連関の図を見て、子どもを育てる部分の中で、自然と触れ合う、学校があって家庭があり病院があるなど、様々な主体が関連しているイメージを理解した。すでにつながりできているものもあるが情報として市民が知る機会が少ない。釧路市から発信することが重要で、釧路は情報を得る機会が少ないと感じる。十勝地方でもセミナーを行うが十勝は様々な場所に地方誌があり、子育てや女性のセミナーに関しても情報があるが釧路では情報がない。子どもを育てることに関しても、情報を共有できるシステムが構築されると良いと思っている。

もう一つは多くの委員から発言があったが、根底にあるのは人と人との関わりだと思う。地元のものを食べたいという点をとっても、人が作っている訳で、人と人との関わりがある。地元で働くという点でも同様である。

委員から発言があったが、一つの組織の中に意識が向きがちだと感じることがある。私は金融機関の職員であるが勉強会、研修等は金融関係に関することしかない。仕事でかかわる勉強会だけでなく企業と企業、金融機関と農業など業種の違う企業がコミュニケーションをとるなど、意識を外に向けていくことも大事である。その業種を越えた幅広いコミュニケーションを通して、自分たちの強みと弱みの認識につながるのではないか。

釧路には、図書館やMOO、遊学館があるが、エリアで子どもたちが遊べるところが釧路はない。人が集まる場所に地場産品を活用した飲食店などがあれば利用するのではないか。ふるさと給食だけでなく日常の中でそのような機会があればよいと思う。

◎域内連関の取り組みの中で、民間企業の方で企業の枠を超えてつながりを構築していく基本構想のメッセージが伝わっていくと地域のつながりが広がっていくと感じた。

○今回示されたまちづくり基本構想素案では、これまでの委員会の中で議論されてきた子ども世代、若い世代に目を向けていると感じた。特に２６ページのところに記載されている目指すべきまちづくりでは、次世代を担う若者に焦点をあてており、釧路が好きな子どもたちを育てるところに力を入れていければ良いと思う。

説明があった域内連関についてだが、私たちの業界でも、昔であれば高齢者に関係する部分のみで仕事ができていたが、今は様々な分野と世代を問わず協力しないと課題を解決できない状況になっている。さまざまな主体がテーマを共有して取り組むという点で共感する。域内連関をコーディネートして、つながりを持った状態を持続させていくことが大事だ。仕事柄見える関係づくりを目指しているが、見えない関係が下地となって、見える関係を強くすると思う。今は高齢者でも携帯を使う人も多い。そういう意味では、会えなくてもつながっている部分が出てくると感じる。

私が担当している地域の中でも集える場を必要としているが、場を作るためには分野が違う人たちとつながらないと持続できないと感じている。現在、地域食堂を作る構想があるが、農家の方など普段関わらない人とのつながりが生かされると感じている。

○域内連関の説明資料を見て最初に硬い感じを受けたが、議論を聞いていく中で、血の通ったもののように感じた。他の委員からも発言があったが、ひがし北海道の中だけで完結する印象があり、閉鎖的な感じを受けた。

外部のつながりをどう考えていくのかも重要だ。確かに経済の面では外からのお金は歓迎だが、域内循環で自分の欲しいものを地域で買えるような状況が生まれていくのが望ましい。

少しでも安いものを欲したり、時間を節約したりするためにネットで探すなど、時間的にも経済的にも余裕がない社会になっていると感じる。「域内循環が築いた地域のつながり」とタイトルに書いてあるが、域内循環が築く部分もあるが、逆に、地域のつながりがあってこそ生まれるのが域内循環だと思う。例えば、商店街で買い物をしなくなるのは、商店街との関わりが薄れているからであり、商店街とつながりがあれば、スーパーより 10 円高くても買い物をする。人間関係が構築されていると自然と地元で買い物をしようと思う。そういう人間関係が希薄になっているので、人間関係の構築自体をまず持ってくることが大事でないか。

域内連関という考え方自体は非常に重要なことであり、このようにテーマを設定し、テーマに則ったかたちで、地域の主体が自覚を持って考えることが重要だ。それを市民一人ひとりが自分のこととして考えることが理想だが、テーマに関しても自発的に見つけていくのは難しく、やはりコーディネータが必要だ。どこに行けばコーディネートしてもらえるのかを探す貪欲さが市民一人ひとりに芽生えることも重要だが、それをバックアップできないと継続せず、域内連関が機能しない。

自分たちがどれだけ自覚をもつかが、大事なポイントになる。市民一人ひとりが重要性を理解できるような示し方が大事であり、誰が見てもこれが大事だと一目でわかるような示し方を考えていただきたい。

◎確かに考え方を示すのは大変難しい。この資料のストーリーは経済的なつながりを社会的なつながりに広げていくという基本構想の考え方がある。一方で、社会的なつながりがなければ、経済的なつながりが生まれてこない。経済的つながりと社会のつながりが双方に絡み合うものとして整理を進めていくことも必要だ。

〇域内連関という言葉は聞き慣れないが、内容を見てみると以前から取り組んでいることが多くある。例えば医療にしても、釧路根室管内で一次医療、二次医療、三次医療の連携、ドクターヘリの問題。食材についてもくしろマルシェなどで管内の産品を取り扱っている。

釧路町との関係でいうと水道・下水道は釧路市が供給しており、ごみ処分も市が行っている。一方で火葬場の部分は釧路町が行っている。言葉は使わなくとも管内と連携はしていかなければならない。そういった意味で

あらためて連関というイメージが出てくることは非常に良い。
　経済界では機会を見て必要だと判断すれば連携に関わらず進めていく。私は一番大事なのは行政のつながりだと思う。行政間の信頼関係を構築する部分はあるが、より踏み込んで管内の町村と釧路市のこのような考え方も伝えながら進めていく。相手の話を聞きながら進めていく事が連関の大事なところだ。

◎行政間の連関は、非常に重要な問題である。

○域内連関の理念はよく出来ていると思う。「子どもを育てる」「観光振興」というテーマについて、自分がどのように関連するのか、何をすればいいのかを考えることが重要であり、そのつながりから収益が生まれれば外貨が生まれて、非常に良い形で循環する。
　事業によって収益が発生すれば市の歳入も増えるはずだが、医療については収益を増やすことはできない。医師会で立ち上げを行った釧路医療ネットワークで取り組んでいるのは支出を抑えることである。慢性腎臓病の透析に今は６０～７０万円くらいかかるが、一歩手前で食い止めると医療費の削減に非常に役立つということで、医師会、歯科医師会、薬剤師会、釧路市が連携して進めており、委員会が９月に始まる。例えば、この人についてはどういう薬がでているか薬剤師もわかるようにする。昨年は藤枝市を視察したが、情報共有ネットワークの構築に始まり、介護の連携と地域包括ケアまでつなげていく。ソフトの導入にお金がかかるが、個人情報を診療所や病院、介護の人が情報を共有してつながりを作っていくなかで、検査や薬の重複をなくしていくことが可能になる取り組みである。
　また、市民には掛かりつけ医を持ってもらいたい。大きな病院にかかる際にも、まずかかりつけ医に行って紹介状をもらってこないと、費用も時間も無駄に掛かる。医師や病院の職員の働き方については現在も疲弊している部分が見えており、５年、１０年後の体制を検討していかなければならない空白の診療時間が発生することを医師会としては懸念している。

◎医療の現場の話から域内連関につながっていく部分があると感じた。限られた公共サービスを効率的に進めていく仕組みづくりの重要な点は情報の共有である。情報を共有していくことは域内連関にもつながっていくものであり、そこのシステムがないと空論になってしまう。

○他の委員の発言を聞いて、域内循環がつながりを築いたというところ

について、つながりが築いていないから域内循環が進んでいないのではないかという点に共感を覚えた。
　前回までの議論の中で、様々な経済的な話をしても結局ベースになるのは人が大事というのが、大半の委員の意見だと思う。人とのつながりが大事であり、釧路が好きだという人を増やしていくことで、子育ての時から地域愛や郷土愛を醸成していく。今回の域内連関の中では、人を育てる点を説明しきれていないと感じるので、人とのつながりが根底にあって人と人を育てる、結びつけるような流れを作ってもらいたい。
　今までになく人にポイントを置いているのが、この委員会の特徴だと認識している。人を育てながらまちが活性化していく流れを強めて示すことが重要である。

◎域内連関を具体的な構想の中で盛り込んでいくのがこれからの作業である。私の意見はそれぞれの委員の発言に付随して感想というかたちで述べさせていただいた。

○基本方針の中に記載されているので、そこまで読んでいけば理解してもらえると思う。このような一覧で全体を見通してわかる資料はわかりやすいので、一目でわかる資料の中に盛り込んでいただきたい。

○今の発言に関連して、私も大事なのは人だと考えている。家庭では子どもたちが自分の家が一番住みよい、温かいと感じる環境をつくることが大事であり、それを広げていくことで大人になっても釧路が好きになる。釧路では自分の好きなものが揃わないこともあると思うが、好きな釧路で探す楽しみもあるのではないか。その中で釧路の良さに気づくこともあると思う。だから家が好き、釧路が好きという人間を育てることが最終的には経済につながっていく。
　それとは別に、行政の関わりについて、資料中の「域内連関のイメージ」の「子どもを育てる」部分で、学校や家庭、地域の連関があるが、主体的に学校が地域や保護者に呼びかけてネットワーク化を進めていることもある。学校で行われているコミュニティスクールが釧路市でも増えてきている。これまでは関係者を集めて、学校経営あるいは教育状況を理解してもらうだけだったが、コミュニティスクールだと地域の人たちが意見を述べて、そして学校の教育方針に大きな影響を与えていけると思う。そうすると、今までの人を育てるという観点に、学校の関係者、PTA だけではなく、広く関係者が関わることで教育が変わっていく。その結果、学校が好

きになり、まちが好きになる、それが経済にもつながっていくと思う。

〇他の委員と同様で人とのつながりが大事だと考えている。今回は釧路市のまちづくり基本構想という政策側の取り組みであるが、一番の主体は民間である自分たちが情報発信してやっていかなければならない。行政には最初のコーディネートを担っていただきたい。

◎人と人とのつながりの重要性が議論された。この域内連関は手段であり、人と人とのつながりをしっかり強めていくことが、地域の信頼関係を強め、信頼社会を形成し、結果的に強い地域を作り上げていくことを示すことが重要だ。基本構想の中の目指すべきまちづくりを実現するための考え方としてはこの定義でいいと思うが、この考え方による政策が見えないと理解も浸透もせず、支持されない。基本的な意見は定義されたと思うが、今後の策定作業や施策展開の中でさらに議論いただきたい。

ウ　分野別施策について

・資料２に基づき、事務局より説明。

〇９１ページの住宅だが、今後空き家が増えていくなかで、倒壊しそうな空き家の対策はどこに書かれているのか。

●釧路市では平成２８年に釧路市空家等対策計画を策定し、所有者が特定できない空き家に対応していく考え方で進めている。

〇たたき台の体系では、空き家等対策の推進と、かなりの認識に基づいていたと思う。空き家等について「空き家等対策を含めた全体的な質の向上に取り組み」と記載されているが、「推進」という言葉を検討していただきたい。

５　市長の感想

地産地消という言葉のベースになったのは、ファーストフードが進出したときに、その地方の食文化が壊されてしまった。その中で、地元を見直す流れから出てきたスローフードである。日本では地産地消という言葉になり、さらにバージョンアップして産消協働になった。北海道の取り組み自体もベースにあるのは域内循環である。これまで合理性、効率性に基づいて物事を進めていくなかで、人と人のつながりも壊してしまった。そ

のような大事な価値観が域内連関のところに結びついてきている。これをどうやって発信していくかが重要だが、世間では合理的、効率的な考え方が受け入れられやすいので、行政で丁寧に説明していくことが重要である。

現在、小学校と中学校の机と椅子をすべて地域材を使用したものに入れ替えている。一般的に売られているのは２万円くらいのところ、地域材で作ると２万５千円になる。そこには公費、税金が投入されるわけであり、２万５千円ならできないので、一般的なものと同じ価格にできないだろうかと何回も相談してきた。行政の予算の仕組みとして単年度の中で発注から納品までを行うことになるが、そこを工夫することで解決できないかの議論を行った。１万２千組を７年間という長期間で替えることで、作る側は比較的時間がある時期に計画的に作業ができることになり、結果２万円で製造可能となった。私どもは域内循環のことをしっかり進めていくが、大事なことはそういった取り組みを民間の中でも進めてもらいたいということだ。先ほど地元の牛乳はコストが高くなるという話があったが、地元の商品が高い理由、背景やこだわりを丁寧に説明することも重要だ。理由もなく地元だから高いということで消費者は納得しない。我々行政もPRして強みにしていくことが重要である。おかげさまで、先ほどの机と椅子は他の地域でも売れた。こういった事例をもっと発信するべきだと感じている。

このような考え方で、域内連関を進めていければ素晴らしいと考えている。連関力が一番必要なのは市役所なのかも知れない。組織と担当が分かれて全く連関していない。本日は貴重な意見を賜ったことにお礼を申し上げる。

◎市役所から範を示していただくということで素晴らしい。域内連関をテーマにいただいた意見を踏まえた新しいコンセプトとしての整理を進めてほしい。

６　その他

・ご意見シートについて事務局より説明。
・釧路市まちづくり基本構想シンポジウムについて説明。

７　閉　会